

学校だより

学校だより 2月号
令和8年1月30日
発行者 外日角小学校
TEL 283-0040

「春を迎える準備の2月」

校長 板井 雅春

暦の上では春を迎える時季となりましたが、厳しい寒さが続き、まだまだ冬の名残を感じる日々が続いています。近年では見られない短時間で的大雪に見舞われても、子供達は元気に登校していました。保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

1月29日(木)2限目は今年度最後の授業参観でした。大雪のため駐車場のない中、徒歩で来校していただいたの参観ありがとうございました。お子様の様子はいかがだったでしょうか。

さて、2月に入ります。2月は和風月名で「如月(きさらぎ)」と呼ばれます。寒さのために衣を重ね着する「衣更着(きさらぎ)」が転じたという説が有力と言われ、まさに今の季節にふさわしい呼び名です。先週から寒波が居座り、連日、雪や厳しい冷え込みが続いています。厳しい寒さが到来することを天気予報で「冬將軍の到来」と表現することがあります。これは、厳しい寒さや雪をもたらす上空の強い寒気を擬人化した表現で、日本では冬季に周期的に南下するシベリア寒気団を指すことが多いようです。しかし、なぜこの寒気を「將軍」と呼ぶのでしょうか?それは、遠くフランス皇帝ナポレオンの時代までさかのぼります。1812年、ナポレオンはロシア遠征中に厳しい寒さと雪に苦しめられ、撤退を余儀なくされました。この敗北を、イギリスの新聞は「ナポレオンは"General Frost"(厳寒將軍)に敗北した」と報じたと言われています。この表現が日本に伝わり「冬將軍」と訳され、今日まで使われて続けているそうです。「冬將軍」という言葉には、こんな歴史が込められているんですね。寒い冬も、その背後にある物語を知ると、少し楽しく感じられるかもしれません。



3日は節分です。節分は季節の変わり目にあたり、心の中の弱さや悪い習慣を「鬼」に例えて追い出し、新しい春を迎える行事です。学校集会でも節分の由来や意味について説明し、自分自身を振り返る機会にしたいと思います。

6日より「6年生を送る会」に向けた体育館練習が始まります。すでに多目的教室、プレイルーム等を利用して練習を始めている学年もあります。これまで学校のリーダーとして活躍してくれた6年生に感謝の気持ちを伝えようと、次期リーダーとなる5年生を中心に、各学年が心を込めて準備を進めてくれています。特に会の運営を担う立場である5年生は、6年生への感謝を表すとともに、自分達が進級し学校を支える存在になるという自覚をもって、真剣に準備に取り掛かっています。今の6年生と同じような、いや、今の6年生を超える次期リーダーとなってほしいと願っています。



寒さの中にも、子供達の成長と春の訪れを感じる季節が近づいてきています。一日一日を大切にしながら、次の学年へ向かって歩みを進める子供達を、今後とも温かく見守り、励ましていただければ幸いです。

※2月19日(木)は、1~4年生のリハーサル日、20日(金)は送る会当日となります。それぞれの日に、お子様の頑張りをご覧ください。ご存知とは思いますが、両日とも授業参観はありません。